

松江市立鹿島歴史民俗資料館だより

No. 48

2026年8月発行

■ 江戸時代の観光スポット？！ 「小勝間山の松」

かつて、鹿島町に「我が国第一の松」とうたわれた松の名木があったのをご存じでしょうか。

周囲を田んぼに囲まれた小勝間山とよばれる小さな丘に、その松はありました。ここには佐太神社の末社である勝間神社があり、松の大木が神木として祀られていました。枝が地に垂れ下がる様子から「下り松」とも呼ばれました。

江戸時代の享保2(1717)年に書かれた松江藩の地誌『雲陽誌』に、小勝間山の松のことが記されています。「高さ12間(約23m)、東西30間あまり(約59m)、南北33間(約65m)」「遠きより見れば青山のごとし」とかなりの大木です。歌を詠む人、詩を作る人、絵を描く人、四季を通じて多くの人がやってきて見飽きることがない、諸国順礼する僧などが、「ほかの有名な松をたくさん見たが、この松に似たものはない」とほめたたと書いています。「我が国第一の松」と、人々が楽しむ様子が詳しく書かれ、まるで今の観光スポットの紹介のようです。

文政8(1825)年の『佐陀大社略記』には小勝間山の松の立派さが強調されるも、すでに枯れて次の代の松に代わっていることが記されます。これもまた、明治44(1911)年に暴風雨で倒れ、その後植えられた松も松くい虫被害で昭和末期に枯れました。小勝間山の丘もまた、圃場整備のため消滅しました。

今ではその姿を見ることができない小勝間山の松ですが、その絵姿や書き留めた文章などが多く残されています。



「小勝間山松の図」(部分)
寛保2(1742)
佐太神社蔵



昭和末期、松くい虫の被害を受ける前の松

小勝間山は78m×42mの楕円形の小丘。圃場整備のため消滅。

今年度の特別展「江戸時代の佐太神社と幻の松」では、当時の地誌、案内記、日記などから、当時の佐太神社や小勝間山の松も含めた周辺の様子を紹介します。

会期は10月18日(日)～1月17日(日)、11月21日(土)には関連講座も予定しています。